

東京都作業療法士会ニュース

編集:東京都作業療法士会広報部 発行:会長 田中勇次郎

生成AIと創造性

まず、この度の2024年1月1日の令和6年能登半島地震の報に接し、心よりお見舞いを申し上げます。石川県能登地方の、一日も早いご復興を心より祈念申し上げます。



東京都立大学 宮本 礼子

映画監督の宮崎駿は、映画「風立ちぬ」で「創造的人生の持ち時間は10年だ」という台詞を書いている。自分自身の持ち時間・人生のピークという意味で用いられているようである。今回はこの"創造性"について、書いてみたいと思う。

発散的思考と収束的思考の相互作用で生み出され る "創造性"が、社会生活を営む上で重要であるこ とはよく知られている。ここ数年の間に爆発的発展 を遂げた生成AIは、従来の識別系AIが学習済みの データから適切な回答を探して提示するのに対し、 0から1を"創造"する能力を持つ。研究者・教育 者の間ではこれを使わない選択はもはやなく、どの ように使っていくかを議論中である。一方、生成 AIでできないことは今のところ「人間の専門性や 感情の理解・表現」とされている。生成AIの能力 は現状にとどまらないだろうが、ヒト対ヒトの間で 生み出される感情的なやりとりや、ときに不合理に みえる(しかし本人にとっては合理的な)選択は、 やはりヒトでしか導き出せないものだとも思う。今 回筆者の肖像を、生成AIで作成するのではなく7 歳の姪っ子に依頼したのも、そんな思いからである。 彼女は、見えているはずのシワをないことにすると

いう気遣いを見せた。リアルな肖像は「あんまりかわいくならない」からだそうだ。

さて、我々作業療法士は日々の業務で、さまざまな要素からクライエントがとりうる選択肢を共に思考し、ときにはまだ世の中にない物や仕組みを作ったりする。その意味でこの仕事は極めて"創造性"が問われるものである。"創造性"はしかし人生経験を重ねるごとに、選択の先が見えるようになるため、素早く思考の収束を見せるようになる。発散の要素が減少してしまうのである。ヒトならではの発散の要素が大落した支援・講義は、生成AIで代用できるものになりはしないか。年を重ね、AIの発展を目の当たりにし、自分に問いかける頻度は増えている。

冒頭の宮崎氏は、自身の創造的人生を30代の終わり~40代の終わりと述べている。けれど、2024年1月7日「君たちはどう生きるか」でゴールデングローブ賞を受賞した。ピークが続いているじゃない?と思ったら、この作品で監督は宮崎→宮崎に氏名変更されていた。新たな創造的人生を歩んでおられるということかもしれない。

CONTENTS

- ◆生成AIと創造性…

 ●
- ◆第20回東京都作業療法学会のチラシと プログラム紹介…**②**
- ◆事業部主催研修 開催後記…④
- ◆教育部から基礎ポイント研修のお知らせ…◆
- ◆子ども委員会ニュース…6
- ◆高齢者の保健事業と
 - 介護予防の一体的実施に向けて…6
- ◆認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告…**⑤** ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.43…**⑥**

- ◆保険部 Letter ~トリプル改定について~…**②**
- ◆研修会開催のお知らせ…❸
- ◆就労支援委員会報告 障害者雇用に関連する 法律の令和6年4月1日施行分の注目点…❸
- ◆災害対策に関する都士会の取り組みについて ~能登半島地震の経験を踏まえて~…**⑨**
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆2024年度 学術誌無料閲覧サービス…❶
- ◆編集後記…⑫

第20回東京都作業療法学会のチラシとプログラム紹介

イムス板橋リハビリテーション病院 松澤 良平

春らしい陽ざしを感じるこの頃、ご健勝にお過ごしのことと存じます。

さて、今回は同封致しましたチラシに込めた想いと講演プログラムの紹介をします。

僭越ながら私がデザイン致しました。チラシを片手にお持ちいただきお読みください。

「東京」ということを第一に考え、次に本学会が第20回目であり「歴史」を繋いでいくこと、そして学会のテーマである「Occupation based」を軸に作りました。

フォントに勘亭流を使用し、江戸歌舞伎を意識しました。そこから定式幕配色となっています。

歌舞伎の語源は「傾(かぶ)く」こと。勝手な振る舞いや奇抜な身なりをすることです。社会は少しずつ多様性を受け入れるような構造に変化しつつありますが、私たちの対象者は、マイノリティであることが少なくありません。数十年前の社会では、大半の人が2足歩行している中で、車いすでの移動は奇抜に見えたでしょう。現在も、私たちの対象者が作業をすることは大多数にとっては、勝手で奇抜に見えるかもしれません。しかし、人は誰でも作業をする権利があり、それぞれの作業はその人固有のものです。その作業を支援する作業療法は少し「かぶく」必要があるということを思っています。

チラシの下部の定式幕調の縦棒は、20本あります。本学会が第20回であり、過去の歴史を「基盤(based)」としていること、そして、うねりを未来に繋げていくことを表しています。

そして、一番のお気に入りポイントは、上部の写真です。学会運営委員の中で作業療法風景の写真を集め、 その中から選びました。モデルの子が、ホワイトボードにダイナミックに描く作業療法は、まさに「Occupation based」です。そして、この子が描くという作業と私たちが学会を楽しむことを掛け合わせています。

ぜひ、皆様の職場で掲示いただき学会のアナウンスをしていただくと共に、学会終了後も日々の臨床で作業を基盤とすることを意識するきっかけにしていただけると幸いです。

それではここからは、プログラムの紹介を致します。

特別講演には、株式会社オキュラボ代表取締役CEO兼CWOの森島肇さんをお迎えしました。森島さんは台東区に会社を構え、企業、社員、地域の方々を対象に、作業療法理論を用いて個人、会社、社会がウェルビーイングであることを目指して活動なさっており、数々のメディアに取り上げられています。本学会では「作業療法士の社会参加支援」をテーマにお話しいただく予定です。

シンポジウムは、各領域で「作業を基盤としてどのように作業療法を展開していくか」をテーマに参加者の 皆様と今後の臨床を考えるべく4名の方にご登壇いただきます。

精神科領域からは東京工科大学の清家康佑さんです。清家さんは、STOD (Screening Tool for the classification of Occupational Dysfunction) という、対象者が社会復帰することに向けて現在の状態を包括的に捉える評価法を開発なさっています。精神科領域での社会参加に向けて話題提供いただく予定です。

身体領域からは帝京平成大学の中本久之さんです。中本さんは、作業療法士や学生を対象に職業的アイデンティティに関する研究を多くなさっています。また、訪問リハビリテーションや高次脳機能障害のある方への支援もなさっています。回復期リハビリテーション病棟から訪問リハビリテーションまで幅広く話題提供いただく予定です。

老年期領域からは桜新町アーバンクリニックの村島久美子さんです。村島さんは、認知症初期集中支援チームの活動に従事され、多数の講演もなさっています。東京では、今後も高齢者人口の増加と共にさらに認知症の方が増えることが予想されています。認知症でありつつ地域で生活する共生社会に向けて話題提供いただく

予定です。

小児領域からは東京都立大学の山西葉子さんです。山西さんは、特別支援教育への参画やスポーツ教室、子どもや家族の余暇支援(キャンプ活動)などに取り組まれています。また、2018年の西日本豪雨災害の際には、災害支援、地域とともに行った活動の話の中で、子どもを対象にした実践をなさっており、その経験を基に話題提供いただく予定です。

そして、教育講演には東京都立大学の石橋裕さんをお迎えしました。石橋さんは、AMPS等の作業遂行、ルックスケア、地域高齢者への取り組みをなさってきました。その中で作業療法に共通すること、臨床での考え方、方法論をご教示いただき、さらに、講義時間に余裕があれば、それらの学び方まで踏み込んでご講演いただくことをお願いしております。

その他、公募企画やイベントも企画しております。本学会が実りある1日となりますように運営委員一同で 鋭意準備を進めて参ります。当日は、多くの方とお会いできることを楽しみにしております。皆様お誘い合わ せの上、お越しください。



学会ホームページ



演題募集要項



演題登録フォーム

事業部主催研修 開催後記

事業部 大舘 哲詩・村上 元太

2月8日に事業部主催研修として「未来の安心を築くためのはじめての資産形成術~OT向け入門編:NISAとiDeCoの活用~」のテーマでオンライン研修を開催しました。講師にファイナンシャルプランナー(CFP・1級ファイナンシャル・プランニング技能士)の塚越菜々子氏をお迎えして、iDeCoやNISAなど資産形成の基本的な部分をわかりやすく教えていただきました。参加者は100名を超え、研修アンケート結果でも大変好評をいただき、続編を望む声も多くいただけました。(大舘)

今回、塚越先生の講義を受けて、私自身まだ入職して1年目ということもあり、住民税も無かったため、節税や老後の資産形成についてはあまり実感を持てていませんでした。しかし、老後まで時間のある20代30代だからこそ、今後深く関わってくるお金に関して、様々な準備や基盤作りが無理なく出来るということをわかりやすく学ぶことができました。(村上)

今回講師のご厚意により講義本編を動画視聴できるよう設定しております。視聴希望のある方は下記フォームからお申込みください。(3月末日締切予定)



教育部から基礎ポイント研修のお知らせ

基礎ポイント研修:高次脳機能障害を呈した対象者への関わり

-急性期・回復期・生活期の事例を通して考える-

開 催 日 時:2024年3月16日 (Zoom) 18時30分~21時00分

申し込みURL

https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=5238587945919649&EventCode=P381003770

QRコード



子ども委員会ニュース

子ども委員会 八重樫貴之

1月27日(土)に日本作業療法士協会主催のオンラインで開催された「教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会」に出席しましたので、その内容を報告いたします。

まずはOT協会の酒井理事より「特別支援教育に関する最近の話題と作業療法士の参画」についての講義で、OT協会のこれまでの取り組みや特別支援教育に関する最近の話題、岐阜県飛騨市で学校の中に作業療法室が設置されたことなど、教育領域へ作業療法士が参画するにあたり理解しておきたい知識の提供がありました。

続いて群馬県士会と北海道士会の代表者から話題提供がありました。最後にグループワークを行ったのですが、北海道、神奈川県、愛知県、大阪府と同じグループになり、情報交換を行いました。東京都は特別支援学校に外部専門家として非常勤で勤務している場合と自立活動教諭の教員免許を取得して教員として常勤で勤務している場合があるのですが、神奈川県は作業療法士の身分のまま常勤で勤務しているなど、各都道府県での取り組みを知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

子ども委員会では、『ヤングケアラーときょうだい支援』の研修会を3月24日(日)13時より東京都立小児総合医療センターにてヤングケアラーでもあった作業療法士の仲田海人氏と「きょうだいのキ・モ・チ」全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会の増田京子氏をお招きして「ヤングケアラーときょうだい支援」の研究会を開催致します。是非ご参加ください。

高齢者の保健事業と 介護予防の一体的実施に向けて

地域づくり共創部金澤均

皆さまにニュースが届く頃には、春の便りが聞かれている頃でしょうか?

令和2年から始まった高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けた取り組みも、いよいよ来年度中には日本全国全市区町村で取り組みが実施となります。既に取り組みを開始している自治体もあることと存じますが、皆様の地域ではどのような取り組みとなっていますか?

この事業は、介護予防事業に検診業務等の保険事業を連動させた事業となります。KDBシステムという国 保連合会が収集した各種データを利活用し、これまで医療保険で行われてきた特定検診等の保健事業と、介護 保険で行われてきた介護予防事業を一体的に実施していく取り組みとなります。この事業の概要には「疾病予 防と重度化予防」と「生活機能の改善」が並びます。作業療法士は「生活機能の改善」という部分に対し、個 別支援と併せて通いの場への関与を、地域リハビリテーション活動支援事業の取り組みと一体的に実施し活躍 することが期待されております。先日、地域づくりサポーター向けに行った実態調査で、既に都内でも作業療 法士が本事業に関わり、活躍しているという声も聞かれております。

地域づくり共創部では本事業の制度概要や先駆的な取り組みも紹介していくとともに、来年度も地域支援人 材育成事業と地域支援体制構築事業を継続的に進めて参りたいと思います。

認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会 委員 **髙尾千香子**

1月20日に「士会における認知症への取り組みを推進する担当者同士の情報交換会」Web開催に参加しま した。この会は、医療、介護保険、地域支援領域で認知症に関わる士会員が全国から参加しています。

第 I 部 (一般会員も参加可):

- ①認知症施策に関する作業療法動向、②士会アンケート結果報告、
- ③士会の取り組み紹介(長野県・福岡県士会)

第Ⅱ部(各士会からの推薦者が参加):

情報交換会(近隣地域5~8名の班ごと)認知症に関する研修の各士会運営の悩みなどの話し合い。

認知症基本法が定められ、認知症の人が希望をもって暮らせる社会を目指すスタートラインに立ちました。 私は認知症地域支援推進員として働くようになってから当事者の方の「本人抜きで決めないで」という言葉を 意識するようになりました。本人の望む生活や活動を聞き取り、地域生活の継続に向けた取り組みを一緒に考 えられる人が求められています。まだまだOTが活躍できることがたくさんあるとこの研修で感じました。よ り有意義な情報をお伝えできるように、みなさんからのお声も聞きながら進めていきたいと思います。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.43

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『あなたが認知症になったから。あなたが認知症にならなかったら。』 著/越智須美子・越智俊一

今更ながらと思われるが、今から15年前の2009年に発刊された、当事者の家族と本人の体験記。昨年9月アルツハイマー月間の市主催のイベントに図書館として本の展示を行った際に、この本の認知症当事者の描いた水彩画のポストカードを見せていたこともあり、気になっていた。本文最初は自己紹介から始まる。夫である俊一さんが今から30年前、1994年47歳ごろに発症したころから、妻の須美子さんの視点でエッセイ風に綴られている。九州福岡で会社員であった俊二さんが認知症と診断されてから、妻の須美子さんと日常生活の中で認知症を通し、どのように過ごしてきたか。書かれている様々な出来事を読み、私自身、俊二さんの行動することの気持ちも理解でき、そして、須美子さんの気持ちもわかる。須美子さんの複雑な心境が強く伝わってきた。ご夫婦の嘆き、落ち込み、認知症への不安・恐怖、夫への介護の状況、夫婦として、家族として、そして一人の人として向き合うことなど、須美子さんのその瞬間の心境がとても重い。認知症関係の本という視点でも読めるが、夫婦とは、家族とは、自分とは何かを考えさせられる一冊であると思った。そして、やはり認知症当事者が社会の中での役割を持つ大切さを確認できた。若年性認知症の福祉サービスへの言及が最後に触れられていたが、15年経過した今でも社会では、まだまだやる必要がある事が多いと感じた。

保険部 Letter ~トリプル改定について~

保険部 野口 僚子

2024年度は「トリプル改定」の年と呼ばれています。

今回は「トリプル」の内訳や「トリプル改定」となった理由などをご紹介します。

トリプル改定では、①診療報酬・②介護報酬・③障害福祉サービス等報酬の3つが改定となります。都士会員の方の多くが、3つのうちいずれかに関わる働き方をしていると思います。

診療報酬は2年に1度、介護報酬と障害福祉サービス等報酬は3年に1度改定されているため、6年に1度同時改定(トリプル改定)となります。改定は国家の財政状況や医療の変化などを踏まえて検討されます。特に今回は「2025年問題」(「団塊の世代」がすべて75歳以上の後期高齢者に)、「2040年問題」(「団塊ジュニア世代」が65歳以上となり、生産年齢人口が減少)を控えた重要な改定と言われています。

今回のトリプル改定のポイントは①医療・介護・福祉の連携、②医療と介護のDX(デジタルトランスフォーメーション)です。

改定内容の検討は、診療報酬が「中央社会保険医療協議会(中医協)」、「介護報酬が社会保障審議会(介護 給付費分科会)」、障害福祉サービス等報酬が「障害福祉サービス等報酬改定検討チーム」でなされており、適 宜情報が開示されています。下記にそれぞれのホームページアドレスをお示ししましたのでご参照ください。

中央社会保険医療協議会(中医協):

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-chuo_128154.html

社会保障審議会(介護給付費分科会):

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-hosho_126698.html

障害福祉サービス等報酬改定検討チーム:

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000202214 00009.html

ADLシーン別研修 『居室・寝室編』

木全澪

参加者が3つのグループに分かれ、「手すり」「リフト」「ベッド背抜き、移乗ボード」の各コーナーを1時間ごとに体験した後、午後からは事例検討を行いました。午前は、実機を前にメーカーの方々から商品説明や実際の使用事例を聞いた後、実機に触れ使う体験をしました。

手すりは、支持物としての基本機能に加えて、前腕支持に適するグリップタイプや、床からの立ち上がりに対応する複数の付属品、足元の空間を確保する一点支柱、足元の触れる床面端がスロ



ープ形状など、特徴ごとに異なる機能がありました。身体機能や生活動作の個別性により細かく対応して使用者の活動範囲を広げる製品が開発されていることがわかりました。

リフトは、スリングシートや本体の特徴を理解し選定する点、操作手順を習得する点が重要となります。リフトの目的は、生活行為間の移動介助に伴う危険と二次障害を減らすことにあります。本人と介助者とが目を合わせコミュニケーションしながら使うことで、本人や家族の生活範囲を広げる道具であることを改めて認識しました。

スライディングボードを用いた移乗と姿勢変換後の除圧は、2人1組で実技を行いました。ベッド背上げ時に生じる圧迫やずれ等は、不快感だけでなく床ずれのリスクに繋がります。滑る素材で出来たグローブを使用したり、ハンドリングによって圧迫を除去する方法を体験しました。移乗方法やマットの種類等を改善しても外力は生じますが、圧抜きを行えば除去でき本人の作業環境を整えることにつながります。

福祉用具の知り、その方に合った福祉用具を選定することで、本人の生活の幅を広げることが出来ることを改めて認識しました。

研修会開催のお知らせ

自動車運転と移動支援対策委員会 委員 青木 佳子

当委員会では3月に「How to 自動車運転?」と題し、東京都内の自動車運転支援の立ち上げと連携をテーマにした研修会を企画しております。

7月の都学会で皆様から頂いたご意見では臨床現場で「どうやって自動車運転支援を行うの?」「そもそも自動車運転支援の立ち上げはどうすればいいの?」などの声が聴かれました。高齢者や高次脳機能障害の方、片麻痺の方など移動支援を必要とされる方が多く、臨床現場でも悩みをもつOTが多い印象でした。今回の研修では1部に実際に立ち上げを行った施設からのご発表、2部では「急性期からどのようにつなげていくのか」をテーマに回復期病院から連携についてのご発表を頂く内容になります。3部ではグループワークを行い、課題や悩みを共有し、どのような対応ができるかなど明日に繋がる支援を見つけ出せる研修会にしたいと考えます。また今回は対面形式とし、顔の見える繋がりを作り、来年度にも継続した関わりとなるよう計画しております。そして会場になる東京都リハビリテーション病院の見学も研修内容に盛り込み、ドライビングシュミレーターや他施設のOT室を見学できる素敵な機会になりますので、ぜひ皆様ご参加の程、宜しくお願い致します。

令和6年3月30日(土)

13:00 受付開始 13:30 研修会開始予定

会費:会員1000円、非会員2000円

申し込みは右記のQRコードからお願いします。



就労支援委員会報告 障害者雇用に関連する法律の 令和6年4月1日施行分の注目点

就労支援委員会 **峯尾** 舞

【現状・課題】

- 現在、障害者雇用促進法において、事業主に雇用義務が課せられているのは、<u>週所定労働時間が20時間以</u> 上の労働者と定められています。
- 他方で、障害特性の影響等で長時間の勤務が難しく、週所定労働時間20時間未満での雇用を希望する者は、いずれの障害種別でも一定数存在しており、特に精神障害者で多い状況です。その為、週20時間未満の労働者の雇用機会の拡大が求められていました。

【見直し内容】

■ 週所定労働時間が特に短い(大臣告示で10時間以上20時間未満と規定予定)精神障害者、重度身体障害者及び重度知的障害者について、特例的な取扱いとして、事業主が雇用した場合に、雇用率に算定できるようにする。

(障害者総合支援法等の改正について厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課より https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/001041541.pdf)

今回の障害者雇用に関する法律(障害者雇用促進法)の改正により、これまで雇用率に算定されなかった方たちの雇用が拡がりそうですね!特に精神障害者保健福祉手帳を取得していると、その重症度によらず10時間以上20時間未満の短時間労働者 1 人で0.5人と算定されるので、精神障害者保健福祉手帳を取得するメリットが増えると考えています。

次年度も就労支援委員会では事例検討会や研修会を企画しますので、ぜひご参加ください。

·就労支援委員会 shuuroushien.tokyo.ot@gmail.com

災害対策に関する都士会の取り組みについて ~能登半島地震の経験を踏まえて~

都士会災害対策担当 門脇 優

令和6年1月1日に石川県能登半島地方にてマグニチュード7.6の地震が発生した。多くの方が被害にあわれ、生活環境も一変している。私は、日本作業療法士協会の災害対策課にも所属し石川県を中心に士会支援をしており、1月にはJRAT(日本リハビリテーション支援協会)の中央対策本部(東京にある後方支援の本部)の活動に参加した経験も踏まえ東京都士会の災害対策に関する取り組みについて振り返る。

まず、平時と災害発生時の取り組みについて一例を下記に記載する。

平時の取り組み

①日本作業療法士協会との連携②災害時シミュレーション訓練にて、各会員の安否情報を確認③研修会の実施④JRATなど関連団体との協働⑤災害対策に対する情報発信などがある。

災害発生後(支援者として)

①日本作業療法士協会との連携②情報収集③JRAT活動への協力④被災都道府県士会への支援などがある。

災害発生後(受援者として)

①災害時安否確認システムにて、所属会員の安否情報確認②日本作業療法士協会との連携③情報収集④各会員から具体的な必要支援についての情報収集⑤JRATを始めとする関連団体と連携し、支援活動の実施などがある。

次に、今後の活動で望まれる取り組みについて一例を記載する。

平時の取り組み

→災害時シミュレーション訓練の回答率向上、都道府県士会と会員との連絡手段の強化、関連団体との関係 性の強化、他都道府県士会との協力体制の強化、災害対策に対しての意識向上、後進の育成など

災害発生後(支援者として)

- →関連団体との情報共有手段の強化、派遣支援体制の構築、被災都道府県士会への必要支援情報の収集など 災害発生後(受援者として)
 - →都士会の災害対応の確認、効果的な安否確認システムの活用、被災会員個人の支援ニーズの把握、被災会員の環境に対する支援ニーズの把握、ニーズに対する支援方法の検討、有事の組織運営について関連団体との確認など
 - 一部ではあるが、上記のような取り組みに今後対応を検討していきたい。

<災害発生時の対応として>

- 避難所支援: JRATを始めとする外部の支援団体が行う
- 各都道府県士会への支援活動:日本作業療法士協会が行う
- 所属している会員への支援活動:各都道府県士会が行う

都士会の災害対策としては、JRATを含め関連団体と協力しながら平時より訓練や研修などを実施し、有事に備えた取り組みを行っていく。各作業療法士への必要な支援のために、日々情報を更新し、適切な対応が行えるよう今後も体制構築に努めていきたい。

ブロック活動のお知らせ

西部西南部ブロック

春口 麻衣

年度末になりました。皆さん、今年度はどんな1年でしたか?

西部西南部ブロックでは、ブロック内のOT同士、顔の見える関係づくりを目指して6区のそれぞれで勉強会等を再企画・実行し始めた1年でした。皆さんは自分の所属先や同級生以外のOTとの関わりはどのくらいありますか?いつも看板を見るあそこの病院、引き継ぎでサマリーを送ったことがあるあの介護施設や訪問看護ステーション。OTに知り合いはいますか?話したことはありますか?西部西南部ブロックでは来年度も顔の見える関係づくりの企画を進める予定です。繋がりをもつこと、それぞれの情報交換などを通して、地域に根ざしたOT支援を目指しませんか?企画詳細は都士会ホームページでご案内します!また、一緒に企画を進めていただける仲間も大募集中です!ブロックの中での活動はまた多くのOTとの繋がりができて楽しいですよ。新しい企画も一緒に試してみましょう!連絡はこちらまで! → seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

藤澤 知弘(竹川病院)

先ず冒頭に能登半島地震で亡くなりになられた皆様に心から哀悼の意を捧げるとともに、被災され避難をされている皆様にお見舞い申し上げます。元旦に起きたこともあり今年一年間をどのように過ごしていくのか考えるきっかけとなりました。「今日」を大切にすること、楽しく日々を過ごすことが重要であると感じました。またCOVID-19も第10波と感染が広がっている状況のため、より一層感染予防に努めること、回復期病院のOTとして患者様に対しできる活動の幅を落とさないように日々介入できたらと思います。平穏に過ごせる日が早く来ることを改めて願いたいと思います。第20回東京都作業療法学会は演題募集を開始しています。締切は2024年3月31日までとなっています。下記QRコードからHPを確認して頂き、募集要項の登録をして頂けたらと思います。また、Facebook等のSNSでも情報を発信していきますので、是非「フォロー」「いいね!」を宜しくお願いします。

◇第20回東京都作業療法学会◇

会 期:2024年7月14日(土)

会 場:帝京平成大学 学 会 長:松澤良平

実行委員長:山下高介

テ ー マ: 『Occupation based』

作業に根ざした実践の魅力を発信できるように、企画運営していきたいと思います



区東部・東北部ブロック

大瀧 直人

今年度、区東部・東北部ブロックはブロック委員協力のもと研修会の企画・運営4件、MTDLP研修運営1件、 高校生に対しての社会人アドバイザー派遣1件、災害発生を想定したシミュレーション訓練への協力を行いま した。研修会では、新しい試みでの「パパ・ママOT研修会」にて子育て中の方、これから子育てを考えてい る方、管理職者などを対象とした研修を行いました。特に子育てをしながら研修会に参加できるようにアーカ イブ配信を行い、様々な環境においても受講できるようにしました。その他の研修会も大変好評でした。また、社会人アドバイザー派遣については、昨年度に引き続き対応させていただきました。まだまだOTの認知度は低いため、少しずつではありますがアドバイザー派遣を通し認知度向上に努めていきます。最後に、ブロック活動は、研修会の企画運営のみならず、中・高校生へのOT啓発活動の協力や各施設間の情報交換などを行っています。ブロック活動に興味がある方は(経験年数問わず)下記までご連絡お待ちしています。よろしくお願いします。連絡先:区東部・東北部ブロック メールアドレス:tokyo.ot2018@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

阿部 幸太

区中央・南部ブロックは、今年度は都学会の運営に終始した1年でした。運営に関わった中で、培われたチームワークを活かし、現在、来年度に向けて準備をしております。当ブロックでは、「繋がり」をテーマに、オンラインでの研修、交流の場などアイディアを出し合いながら、新たな企画を考えています。奮ってのご参加よろしくお願い致します。最後に当ブロックでは、一緒に活動をして頂ける方を募集しています。興味のある方やご要望、ご意見のある方は、ぜひ一度ご連絡をお願い致します。ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

山野井 悠

北多摩ブロックでは、作業療法士が交流する場「ツドイノバ」を定期的に開催しています。そのツドイノバを昨年12月に初めて対面で行いました。場所は武蔵五日市の古民家でした。遠方であるにも関わらず20人の作業療法士が集い、テーマについて語らいました。古き良き日本家屋の雰囲気も相まって、話に花が咲いている





方が多く見られました。今後もツドイノバは、堅苦 しくなく、気軽に来られて気楽に過ごせる、そんな 場でありたいと思います。みなさまのご参加をお待 ちしています。

*ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

八木・山崎・尹

今年度、西多摩・南多摩ブロックでは、オリジナル研修と認知症アップデート研修を企画・運営致しました。 10月には、オンラインにて、脳卒中フェスティバルの代表・副代表の方をお呼びして、「明日から活かせる! 脳卒中フェスティバルから学ぶ、当事者の視点」というテーマでオリジナル研修を実施しました。脳卒中フェ スティバルの活動や若手リハスタッフへのメッセージを講演いただき、質疑応答も活発で大盛況のうちに閉幕 しました。明日からの臨床に早速活かしていける内容でした。

脳卒中フェスティバルの活動にご興味のある方はこちら! → https://noufes.com/

また、12月には、オンラインにて、認知症アップデート研修を実施しました。講師の先生方には基地局となる南多摩病院にお越しいただき、認知症の基礎知識のご講義とともにアップデート、またブロックオリジナル企画としては、鶴川サナトリウム病院のMCIへの取り組みを紹介していただきました。オンライン、また基地局ともに盛り上がり、楽しく学べる機会となりました。今年度は新型コロナウィルスやインフルエンザ等の影響で、オンライン開催がメインとなりましたが、来年度は対面での研修等も企画出来ればと思います!

ブロックメンバー大募集!ご興味ある方はご連絡下さい ⇒ swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

2024年度学術誌無料閲覧サービス

東京都作業療法士会 会員の皆様は、専用アカウント(ID・PASS)を用いて メディカルオンライン掲載の 当会学術誌「東京作業療法」 を無料で閲覧できます。



【ご利用に関するお問い合わせ】 東京都作業療法士会 学術部 : henshu@tokyo-ot.com 会員以外の方のご利用、または無断での転載、 複製、転用等はお控えください。

編集後記

今回は恩師の宮本礼子先生に巻頭言をお願いしました。生成AIを切り口に創造性について述べられていました。ともすると私の臨床も発散の要素が年々減ってきており、これじゃあいけないな~と思いつつ答えが出せずにいましたが、生成AIを有効に使うことによって楽しくリハビリができればいいなと思いました。新たな視点をありがとうございました。都学会の案内も徐々にプログラムが固まってきているようで、今から楽しみです。最後になりましたが、災害対策担当の門脇さんには能登半島地震での活動について報告して頂きましたが、被災者の方が少しでも早く安心した日常を取り戻せるように広報部一同祈っております。

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

●東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL: 03-6380-4681 FAX: 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ http://tokyo-ot.com/

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い:現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。